

へらエサ POWER BOOK

2008



02

アウトライン

盛期の(初夏~秋口)のへら鮒釣り

04

両ダンゴの浅ダナ釣り

09

両ダンゴのチョーテン釣り

14

両ダンゴの底釣り

19

ペレ宙

22

ヒゲト口のセット釣り

(浅ダナ&短竿チョーテン)

26

ウドンセットの浅ダナ釣り

29

一発の段差釣り

32

マッシュの釣り

35

へらエサ性質表

アウトライン

盛期の(初夏~秋口)のへら鮒釣り

●初夏のへら鮒釣り

日差しが強さを増す初夏。この頃になると朝の冷え込みもなくなり、気温は安定期に入る。野釣りでは平野部から山上湖へとフィールドが移る。遅い乗っ込みでは大型の地べらも動き出し、バラケとグルテンのセット釣りから両ダンゴへとエサが変わるのもこの時期。

管理釣り場も同様に、水温の上昇により活性も向上し、食欲旺盛なへら鮒には両ダンゴ釣りが有効だ。この時期のダンゴエサは軽くてハリ持ちがいいことが条件。活発なウキの動きに比例して枚数が伸び、大釣りが期待できる。

その一方で、大型べらを中心に放流している釣り場では

両グルテンの宙釣りが良い時もある。最近では開きの良いものを大きくハリ付けするより、まとまりが良いものを手返しよく攻める釣り方で好釣果がでている。ただ、この釣り方は時期が短く、事前情報を基に釣り方を絞りたい。

また、混みあう休日ではウキが動く釣り方としてヒゲト口、ウドンのセット釣りも見逃せない。ここでのハリスは上5cmと下12~25cmといったようにくわせエサによって下のハリスの長さが変わってくるが、あくまでウキの動きを見ながら対応することが大切だ。

●夏のへら鮒釣り

夏に入ると野釣り、管理釣り場とも両ダンゴ釣りがメインになる。エサの傾向は初夏

のものと同じと考えていいが、この時期の野釣りではチョーチン釣りでダイナミックな釣りが楽しめる。ダンゴエサは管理釣り場の浅タナ用のもの

に、昨年では「ダンゴの底釣り夏」をブレンドし、重めでまとまりがあるものをムクトップウキと上60cmと下75cmとிட்டた長ハリスでへら鮒にエ



サを追わせる釣り方で爆釣を連発した。

だが、混み合うとウキの動きがいきなり静かになる難点がある。こんなときはへら鮒を急速に、しかも大量に寄せることが出来るバラケと「一発」の釣りで釣果が伸びる。ポイントはバラけた粒子の中に「一発」を紛れ込ませること。そのため、この釣りではアタリの出方に応じて下のハリスの長さを調節するのがキーポイントだ。

●秋口のへら鮒釣り

季節が夏を過ぎて秋口に移ると、エサ慣れしたへら鮒が多くなるため、エサ使いが変わってくる。しかも秋の長雨のシーズンに入るので釣りが難しくなるものだ。

管理釣り場では両ダンゴエサではカラツンが頻発するため、ダンゴエサをそのまま上バりに付けて、下にヒゲト口

を付けるセット釣りが効果的。この釣りは両ダンゴから簡単にチェンジできる手軽さに人気がある。

また、大量のへら鮒を寄せて釣っていくパワー系と呼ばれるウドンセットも効果的な時期。大会や例会などでは並びをブツチぎる爆発的釣果を叩き出せる強い釣りだ。

野釣りの両ダンゴは粘り気が強いものでは反応が鈍いので、ボソツとした開きのいいものへと変わってくる。

また、秋口はチョーチン釣りだけでなく釣り場によっては上層に大型のへら鮒が着くので、タナ1・5〜2mをバラケとヒゲト口のセット釣りで狙うのも面白い。

まだ活性が高い時期なので、ハリ掛かりしたへら鮒の引きは強烈だ。ハリス切れのトラブル防止のため、下ハリスは0・5〜0・6号の太いものが安心だ。